



かどわきっ子

お世話になりました

今月初めに行いました家庭訪問は、学級担任が大変お世話になりました。

この家庭訪問は、子どもたちの成長のため、教師と保護者が協力する体制を築くことをねらいとしています。教師と保護者が「同じ方向を向く」ことが、子どもの成長には必要です。「同じ方向を向く」ためには、お会いして直接話すことが一番です。そこには、連絡帳や電話とは違い、流れる空気があります。日本人が得意とする「相手の思いをくみ取る」ということです。「こんなことを言ってもいいのだろうか。」「こんなことを言ったら、クレーマーと思われなければならないか。」などと心配なさらず、今後とも学級担任と直接話をしていただき、同じ方向を向くことができたらと思います。

家庭訪問の中で、「大人が不在時に、家にあがって遊んでいる。」という大切な情報もいただきました。ルールの確認をして子どもに指導しています。御家庭でも、ぜひお子さんに御指導ください。

「やさしく」のアップ。

PTA総会でもお話ししましたが、今年度の重点事項「やさしく」のアップのため、

「①挨拶 ②返事 ③言葉遣い」をあげています。その中でも、1 学期は特に「挨拶」を頑張らせましょうとお伝えしました。お子さんの様子はいかがでしょう。あまり変わらないというのが実情でしょう。習慣とはそういうもので、一朝一夕には身に付きません。しかし、言い続けなければ何も変わりません。

学校は、大人は、なぜ挨拶や返事を大切にさせたいのでしょうか。理由は様々でしょうが、次のように考えます。

「挨拶」は、感謝の心を育てます。

「おはようございます。」には、「今日も一日よろしく願います。」という心が入っています。「さようなら。」には、「今日一日楽しく過ごせました。ありがとう。」という感謝の心が入っています。

「返事」は、素直な心を育てます。

「はい」という返事は、「あなたの言うことが分かりました。」という意味表示とともに、「あなたを受け入れます。」という素直な心の表れです。

「言葉遣い」は、優しい心を育てます。

丁寧な言葉は、相手を支配・命令するような上下関係ではなく、「大切な一人」として尊重する優しい心の表れです。

以前、挨拶が素晴らしい子どもに、「いつもいい挨拶だね。どうしてそんなに上手なの？」と尋ねました。すると、返ってきた言葉は、「いつも、お父さんやお母さんが近所の人をしているから。」でした。一番身近な人の姿を見て、それを小さいころから繰り返す中で、自然と身に付いたのかもしれないね。きっとそこには、「挨拶が上手だね。」なんて褒められたことも多くあったことでしょう。

1年後…学校・学級で朝の挨拶ができる

2年後…家庭・集合場所で挨拶ができる

3年後…地域で挨拶ができる

上記の目標が達成できるよう指導を続けたいと思います。